



菊池靖樹さん
(26歳・荷上場)

サッカーチーム

私は、今からちょうど2年前、日韓両国で開催された、サッカーWカップでの日本代表の活躍に刺激を受けてサッカーを始めました。

最初は、ただボールを蹴っていたのですが、「チーム作るで!」という話になり、会社の仲間、その友達と、どんどん仲間が集まり、チームが出来るまでになりました。ほとんどが素人の集まりで、最初の頃はるくに練習もせず、いきなり試合をしてはボロ負けで、とてもサッカーの試合とは言えず恥ずかしいものでした。



公式リーグ戦でのプレー
(本人右)

今では、しっかりと練習をしてリーグ戦に参加するなど活動範囲を広げ、経験を積み、たまに勝てるようになり、ようやくサッカーの試合らしくなってきました。

影響され始めたサッカーがこんなにもハマるなんて自分でも思いませんでした。こんなチームですが、1試合でも多く勝てるように、そして、楽しくサッカーをやって行ければと思っています。

次は、小繋の菊池邦彦さんにバトンタッチです。

拝啓 ふるさと様

〜東京二ツ井会会員からふるさとへの熱いメッセージ〜



同級生と一緒に
(本人左)

池端 完さん
(富根出身)
千葉県千葉市在住

故郷を飛び出し長期出稼ぎ稼業40年余、還暦もいつのまにか過ぎ、定年現役引退となる。勤務地も、東京・大阪・千葉・神奈川と経験した。昔の少年が水飲み百姓の倅として、その内なる物はさして変わりなくも、頭髪・眉白く、且つ老人特有のシミ・斑点等々、外見は著しく変貌した。昭和晩年のある夕食時に私は妻子へ「定年後、長期出稼ぎに終止符を打つ。今の土地、家を売り払って、故郷の二ツ井にひっ込む予定」の旨を表明した。妻の表情が一瞬ゆがむ。と、娘が手を挙げて「お父さんの故郷は二ツ井で、故郷を想う気持ちは理解できますが、私達は千葉市で生まれ、そして私達の故郷は千葉市です。それぞれ故郷を想う気持ちは一緒だと思います。」との反論あり。味方を得たとはばかり妻の冷たい一言。「帰りたかったらお一人でお帰りなさい。私はここに残ります。」私の長年の帰郷の夢破れた一瞬で、以後本件が話題になることは二度とない。健康に留意し未だ見ぬ二人の子供たちの配偶者に想いを馳せ、古希を目指している日々である。両親と同様に金婚式を・・・と想っている。未尾ながら、二ツ井町の皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。



6/12

ニッ井青年会議所
創立30周年記念式典
明るい豊かなまちづくりにめざして、数々の活動をしてきたニッ井青年会議所の創立30周年記念式典が福祉会館と勤労者体育センターで開催されました。式典に続き合流調印式が行われ、ニッ井青年会議所は能代青年会議所と来年1月1日に合流することとなります。



6/12

ニッ井高校
創立40周年記念招待野球試合
青空の下、ニッ井高校の創立40周年記念招待野球試合が秋田高校を招いて行われました。ニッ井球場にはおよそ500人の生徒や町民が駆けつけ、白球を追いかけて攻守ともにすばらしいプレーを繰り広げる両校の球児に熱いエールを贈っていました。



6/15

小学校陸上競技大会
小雨模様の天気となりましたが、町内各小学校の児童は、やる気満々の様子でニッ井小グラウンドに集結。選手たちは100m走や幅跳びなどの各種目に出場。家族や同じ学校の児童から贈られる声援の中、誰よりも速く高く、遠くをめざしてがんばりました。



6/13

郷土の森
春の自然観察会
絶好の晴天に恵まれたこの日、町内外から25名の参加者が集まり、ふたつ白神郷土の森へ出発。澄みきつた空の中、展望台からの景色や種梅川源流部の渓谷を見て回り、緑が美しいブナ林を散策し、昼食にはたけのこ汁を食べて、初夏の大自然を満喫しました。



6/20

米代川カップ
グラウンドゴルフ大会
あいにくの雨模様となりましたが、薄井緑のひろばにはたくさん選手が集まり競技を開始。時折強くなる雨と、前日からの雨でぬかるんだコースコンディションの中、力いっぱい打ったボールも水たまりにはまり止まってしまふなど悪戦苦闘しながらも、ハイスコアを狙いながらプレーを楽しみました。